

国際協力特別賞

一粒の夢が、きっと大きな力になる

新潟県立国際情報高校 1年

村上 寿々子

私の住んでいる長岡市には、「米百俵の精神」という考え方がある。戊辰戦争のあとのとても困窮していた時代に国漢学校を設立した小林虎三郎の話である。戦争のあとである。当然食物が不足していたころ、違う藩から米百俵がお見舞いで届いた。藩のみんなは、やっと食べられると喜んだそうだが、虎三郎は、この米百俵を文武両道に必要な書籍、器具の購入にあてるために、米百俵を売却し、そのお金で国漢学校に使ったという話である。しかし、そのおかげで、学問や芸術を習うことができ、すぐれた人材を育成し、世界へ送り出すことができたという話である。さらに、この学校は、藩士の子弟だけでなく町民や農民の子どもも入学を許可、生徒一人一人の才能を伸ばし、長岡の近代教育の基礎が築かれたと伝えられている。今もこの精神は長岡市内の小学校、中学校、高校でも話され、大切に受け継がれている。

しかし、この話を何度も聞いていたはずだが、私にはなんとなくピンとこなかった。自分自身に照らし合わせることができなかつたのである。

今年の夏、私は国際キャンプに参加した。他国からの留学生と一緒に過ごし、お互いの国について、生活について話し合い、高め合う活動である。語学に劣等感があり、人見知りであるがたった一人で挑戦したいと思い、申し込んだ。私はここでいろいろな国の人と接することで、日本の国の良さ、悪いところも見えてくるようになってきた。考え方も感じ方も違うみんなと議論した。語学への期待も大きかったが、このキャンプでの出会いは「人」という対象だけでなく、新しい文化、別角度からの価値観、仲間たちの経験というさまざまな出会いもあった。

時には、自分がちっぽけに見え、時には、すこし大人になったようなとても胸を張りたくなる時もあった。みんなもしかしたら、同じだと思った。小さな自分だが、きっとみんなと一緒にやることで大きな何かを掴めるのではないかと日を追うごとに感じてきたと思う。

世界の幸せってなんだろう。世界はどんな課題があるのだろうか。世界に対してなにができるだろうとキャンプ中に考えていた。

私はもっと他国を知りたいと思った。日本以外の国はニュース、インターネットでは知ることができるが報道の一部分である。こうして、キャンプで話し合うと仲間たちみな違った考えを持ち、ぶつかった。しかし、それが刺激的で楽しかった。何より、真剣にお互いを受けとめ、理解するために努力していた。

私は、考えた。小さな自分であるが、きっと米粒1粒のように一人から、仲間をつくり、語り合い学び合い、ともに歩めば、きっと大きな力になり、知恵が結集され、大きな実になるのではないか。仲間とともに課題を見つけ、アクションプランを一緒に練る。その積み重ねが、大きな米俵になり、国際社会に役立てる力になる。

キャンプを通して、なんとなく、米百俵がわかってきたような気がする。2017年この米

百俵の精神が伝わった南米ホンジュラスには、米百俵学校が 124 校になった。ホンジュラスは教育に力を入れれば、間違いなく発展すると一人の駐ホンジュラス大使が行動を起こした。この話を聞き、長岡が誇るこの精神は世界へも伝わっていると感激した。

これからも小さな力が大きな俵になるために、身近な出会いから自ら求める出会いまでを大切にしていきたい。出会う場へ自分を踏襲したい。そして出会いの積み重ねから世界の幸せにするヒントを得て、自分以外のたくさん米粒と俵になるまで高め合いたいと思っている。